

地域銀行の平成 26 年 9 月期決算の概要

1. 損益の状況（銀行単体ベース）

- 実質業務純益は、役務取引等利益や債券等関係損益が増加したものの、資金利益の減少等により、前年同期に比べ 4.2%の減少。
- 中間純利益は、与信関係費用の減少等により、前年同期に比べ 1.0%の増加。

（単位：億円）

	24 年 9 月期	25 年 9 月期	26 年 9 月期	前年同期比
業務粗利益	24,811	24,173	23,909	▲ 264
資金利益	20,636	20,614	20,164	▲ 450
役務取引等利益	2,286	2,573	2,699	126
債券等関係損益	1,460	623	703	80
うち、債券等償却	▲ 116	▲ 30	▲ 3	27
経費	▲ 15,850	▲ 15,811	▲ 15,895	▲ 84
実質業務純益	8,961	8,361	8,013	▲ 348
与信関係費用(※)	▲ 1,411	▲ 695	▲ 83	612
株式等関係損益	▲ 1,681	734	393	▲ 341
うち、株式等償却	▲ 1,593	▲ 37	▲ 16	21
中間純利益	3,967	5,783	5,840	57

※ 与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

（参考）

	24 年 9 月期	25 年 9 月期	26 年 9 月期
貸出金（末残）	215.2 兆円	220.9 兆円	228.4 兆円

2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

- 不良債権額は 26 年 3 月期に比べ減少、不良債権比率も低下。
（いずれも平成 11 年 3 月期の金融再生法に基づく開示以降で最低）

	25 年 9 月期	26 年 3 月期	26 年 9 月期
不良債権額	6.5 兆円	6.2 兆円	5.9 兆円
不良債権比率	2.91%	2.72%	2.56%

3. 自己資本比率の状況（銀行単体ベース）

- 国際統一基準行の総自己資本比率は 26 年 3 月期に比べ上昇したものの、普通株式等 Tier1 比率は、貸出金の増加を主因とするリスクアセットの増加等により 26 年 3 月期に比べ僅かながら低下。
- 国内基準行の自己資本比率についても、同様の要因により 26 年 3 月期に比べ僅かながら低下。

（国際統一基準行：10行）

	26 年 3 月期	26 年 9 月期
総自己資本比率	14.28%	14.35%
Tier1 比率	12.63%	12.57%
普通株式等 Tier1 比率	12.59%	12.52%

（国内基準行：96行）

	26 年 3 月期	26 年 9 月期
自己資本比率	11.04%	10.96%

（注1）26年9月期の集計対象は106行（地方銀行64行、第二地方銀行41行及び埼玉りそな銀行）

（注2）与信関係費用・不良債権の計数には、再生専門子会社分を含む。